

小児気管支喘息患者の家族に対するパンフレットを用いた指導の効果

キーワード：小児気管支喘息・パンフレット・患者家族指導・モチベーション理論

1 病棟 5 階東

西村佳代子 西村千秋 原田陽子 桐原彩乃 勝部彩子 三村かよ子 末重千里

I. はじめに

小児気管支喘息患者（以下喘息患児）は、患者家族の知識不足により、家庭での日常生活管理が不十分で喘息発作を起こし入院となる場合が少なくない。「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2008」¹⁾によると、小児気管支喘息の治療と日常生活管理は喘息患児本人と家族に依存するところが大きいとあり、患者教育の内容が小児気管支喘息の予後に強い影響を及ぼす。また、宮崎らは、「気管支喘息を治癒またはコントロール良好な状態にするためには、患者指導が不可欠である。そして看護師の効果的な指導により、適切な管理がなされれば、症状の改善や発作の減少、入院の回避などが望めることを理解する」²⁾と述べている。そのため患者家族に明確で実行しやすい治療・日常生活管理方法を提示することが大切である。

これまで、A 病院小児科では、喘息患児をもつ家族に対して統一した指導を行っていなかった。そこで、平成 21 年度の看護研究で喘息患児をもつ家族の意識調査を行い、疾患コントロールにおける問題点や指導してほしい点を抽出した。今回その結果をもとに、患児、家族のニーズに沿ったパンフレットを作成し喘息患児の付き添い家族にパンフレットを用いて指導を行い、その効果を分析したので報告する。

II. 目的

平成 21 年度の研究結果をもとに作成した指導用パンフレットを用い、喘息患児の家族へ統一した指導を行う。その結果をアンケート調査により分析し、明らかにする。

III. 方法

- 1) 研究デザイン：量的研究
- 2) 調査対象期間：平成 22 年 9 月～平成 22 年 12 月
- 3) 調査方法：喘息外来受診時の待ち時間などを利用し、病棟から出向している外来担当看護師メンバーがパンフレット（喘息について：病気のしくみと日常生活管理について）を用いて指導を行った。指導の効果を評価するために、指導後、家族にアンケート調査を依頼した。アンケート用紙は配布とし、次回受診日に外来窓口に設置した専用の回収箱で回収し、集計を行った。
- 4) 調査内容：アンケート内容は、「罹患歴」、「パンフレットを用いた指導を受ける前の知識」、「パンフレットを用いた指導を受けた後の知識・意識・日常生活行動の変化」、「今後パンフレットに追加してほしい項目・指導してほしい内容」等を問うもので、自由記載の欄も設けた。
- 5) 分析方法：患児家族がパンフレットを用いた指導を受けた後に回答したアンケートから、パンフレットを用いた指導が患児家族の喘息治療、日常生活管理の知識・意識・

行動に影響を及ぼす効果があったのかを分析した。

- ・パンフレットを用いた指導を受ける前後で知識に差はでるのか。
- ・パンフレットを用いた指導を受ける前後で意識に差はでるのか。
- ・パンフレットを用いた指導を受ける前後で日常生活行動は変化するのか。

6) 倫理的配慮: アンケート紙面上にて、研究の目的と意義、及び無記名調査であること、得られたデータはこの研究以外には用いないこと、無記名アンケートのため回答後は同意撤回ができないこと、研究への参加は自由意思であることを明記した。A 病院医薬品等・臨床研究等審査委員会の承認を得た。

IV. 結果

指導用パンフレットは、医師の指導のもと内容を検討し、作成した。パンフレットの構成は、A: 病気のしくみ、B: 喘息が起きやすい環境、C: 日常生活で気をつけること、D: 治療目標、E: 発作時対応の 5 項目について具体的に記載した。

パンフレットには、図 1~4 のように、絵やキャラクター、表をもりこみ、理解のために視覚的効果をもたせるとともに、興味をもって読めるよう工夫した。

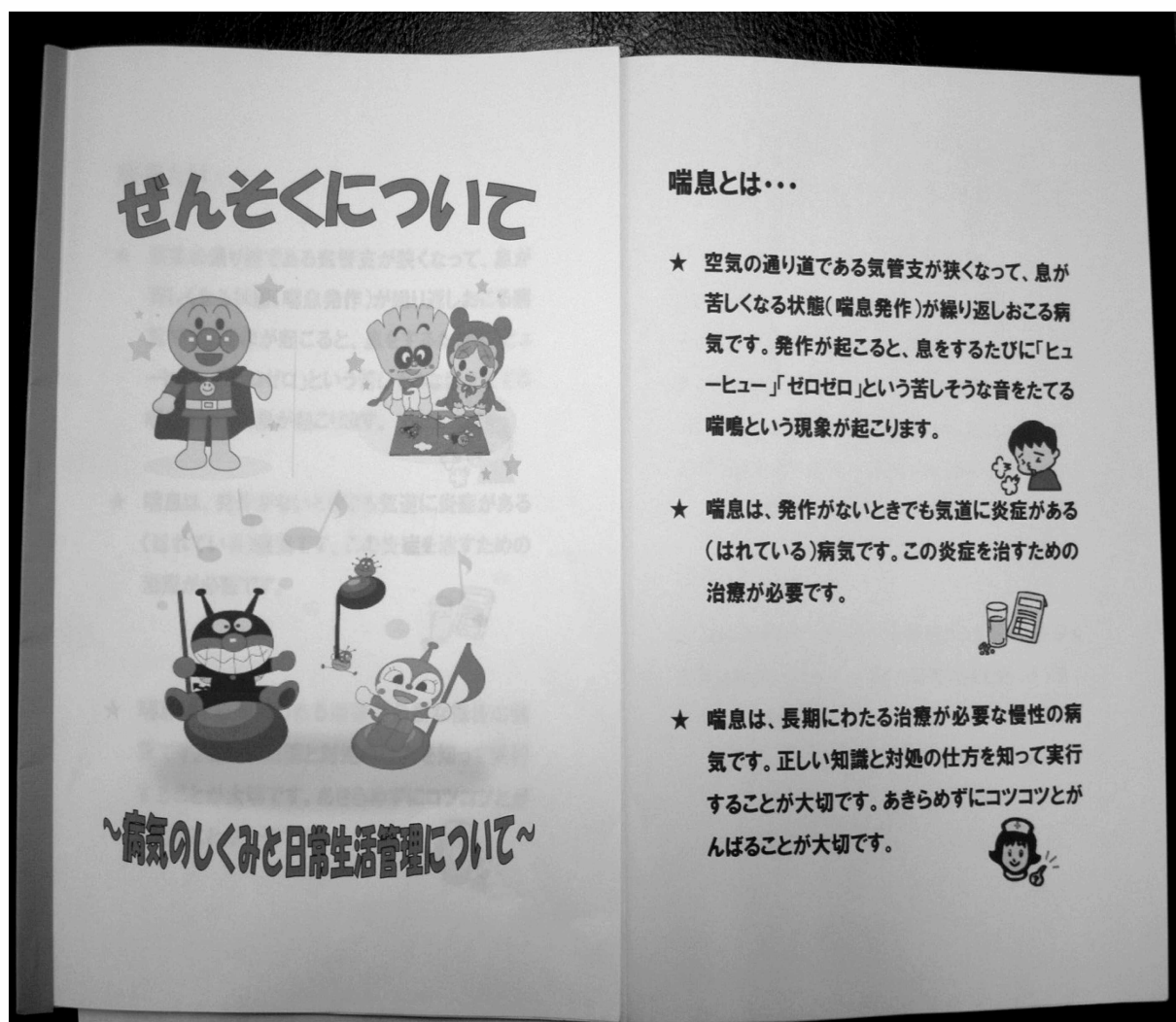


図 1 指導用パンフレット (表紙、病気のしくみの 1 部)

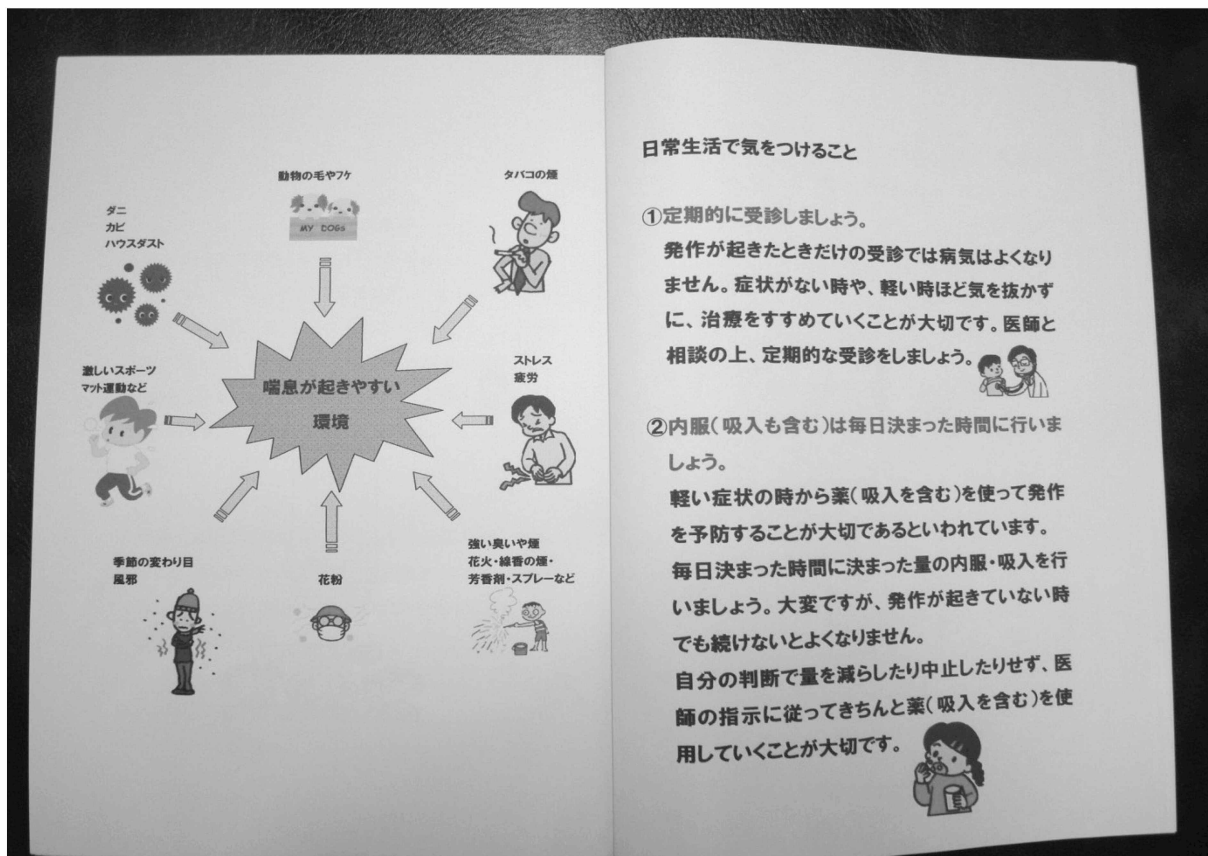


図2 指導用パンフレット（喘息が起きやすい環境、日常生活で気をつけることの1部）

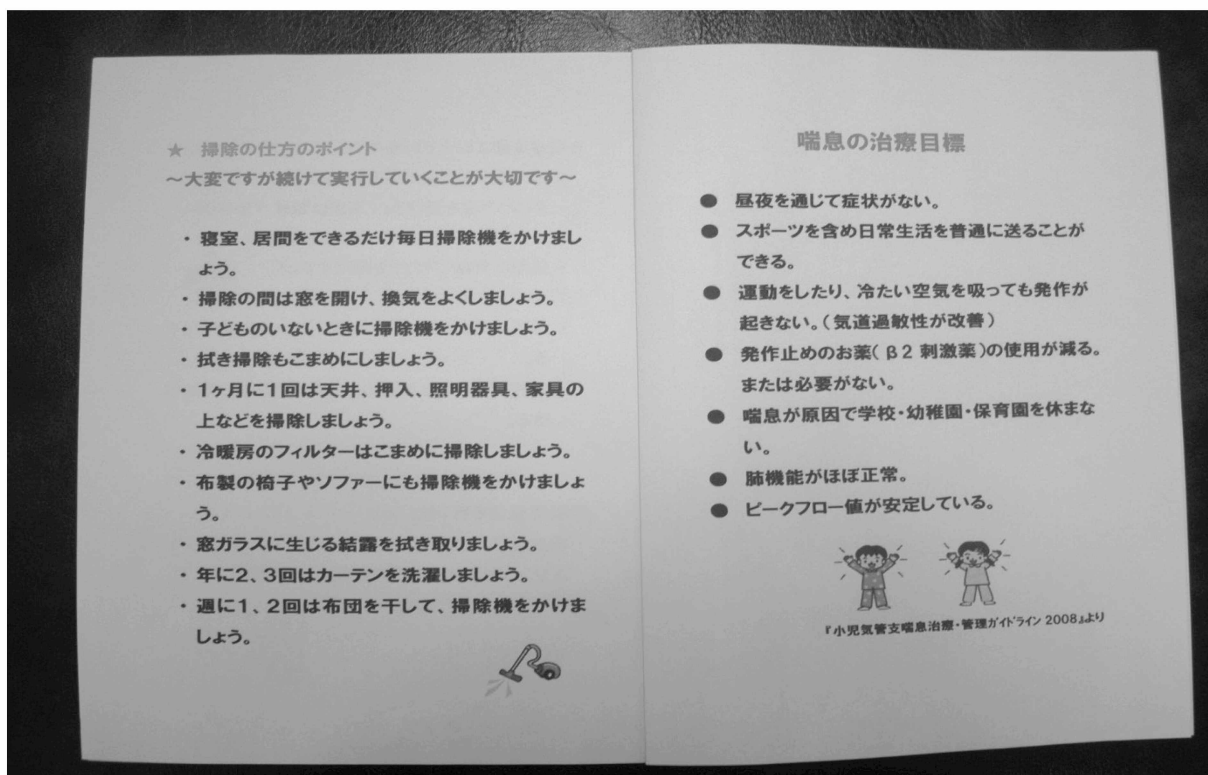


図3 指導用パンフレット（掃除の仕方のポイント、治療目標）

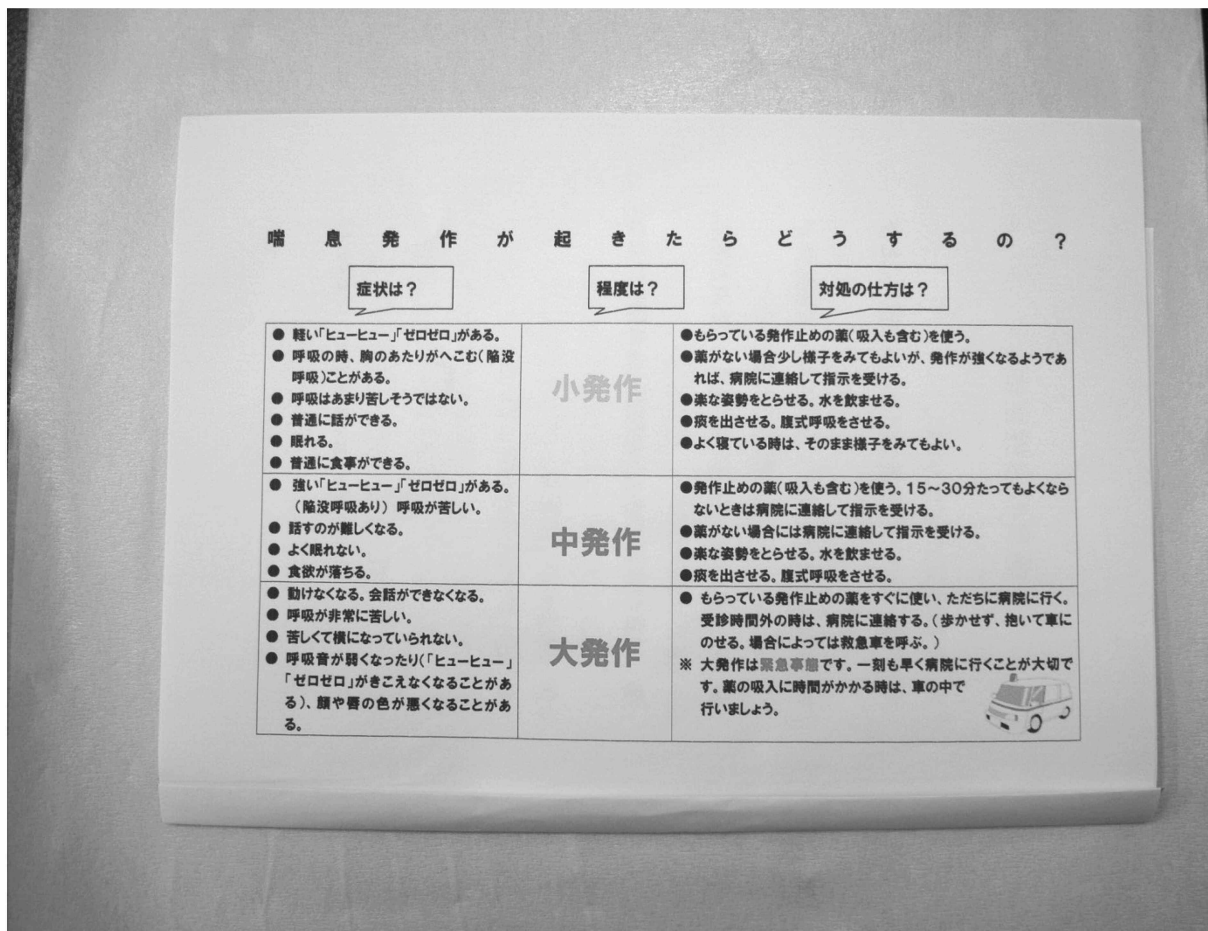


図4 指導用パンフレット(発作時対応)

パンフレットを用いた指導は、77例に行い、31例の回答を得、アンケートの回収率は40%であった。喘息の知識については、指導を受ける前、各項目について「知らなかった」と回答したのは、A:19%、B:10%、C:19%、D:32%、E:32%であった。(図5参照)

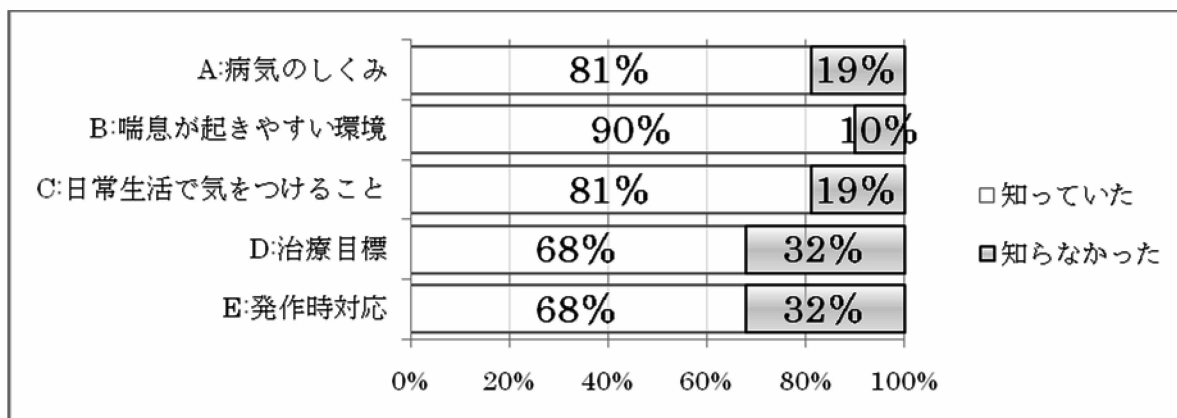


図5 指導を受ける前の知識

指導後は、すべての項目で100%が、「わかった」と回答した。自由記載の欄には、「発作時対応については、具体的対応が示されており、理解しやすかった」、「知っていたことも再確認できた」、「あいまいだった知識を正すことができた」等の変化を表す記載があった。

「パンフレットを用いた指導を受けた後、喘息についての意識が変わったか」との問いには、58%が「変わった」と回答した。(図6参照)

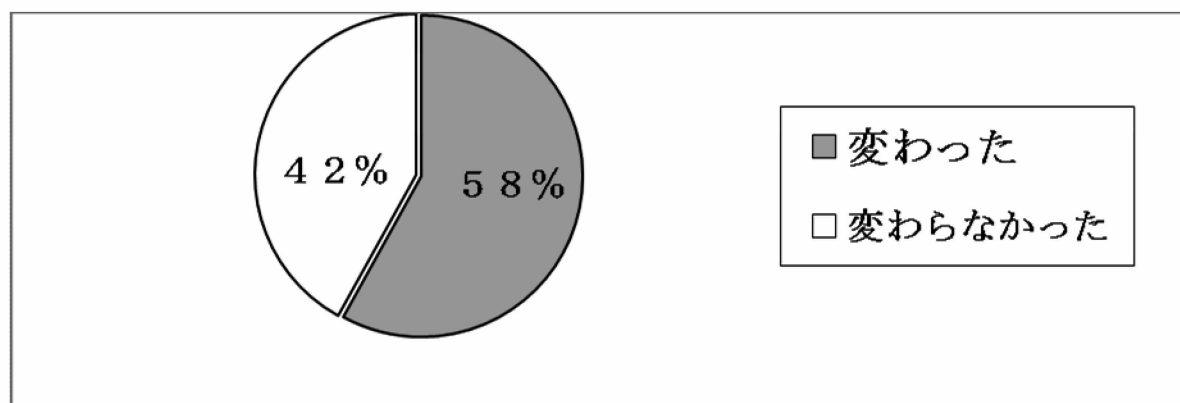


図6 指導を受けた後の喘息についての意識の変化

意識が変化した理由としては、「治療、環境整備の具体的方法が理解でき、実行する気持ちになった」、「知ってはいたが実行していなかったことも実行してみようという気持ちになった」、「症状のない時でも治療が必要であるということは知らなかった。根気よく付き合っていかなければならない病気であることがわかった」、「パンフレットは、他の家族や保育園、学校への理解を促す上でもとても役に立ちよかった」等が挙げられていた。

日常生活行動については、全員が何らかの対応を行っていたが、「掃除のポイントに注意して環境整備を行うようになった」、「規則正しい生活を心掛けるようになった」、「喘息の起きやすい環境をさけるようになった」、「医師・看護師に質問するようになった」等の項目で、「よりするようになった」と変化がみられた。中でも、日常生活の中で家族が掃除を通して、患児の生活環境を整えるということに対する行動の変化が61%と最も大きかった。(図7参照)

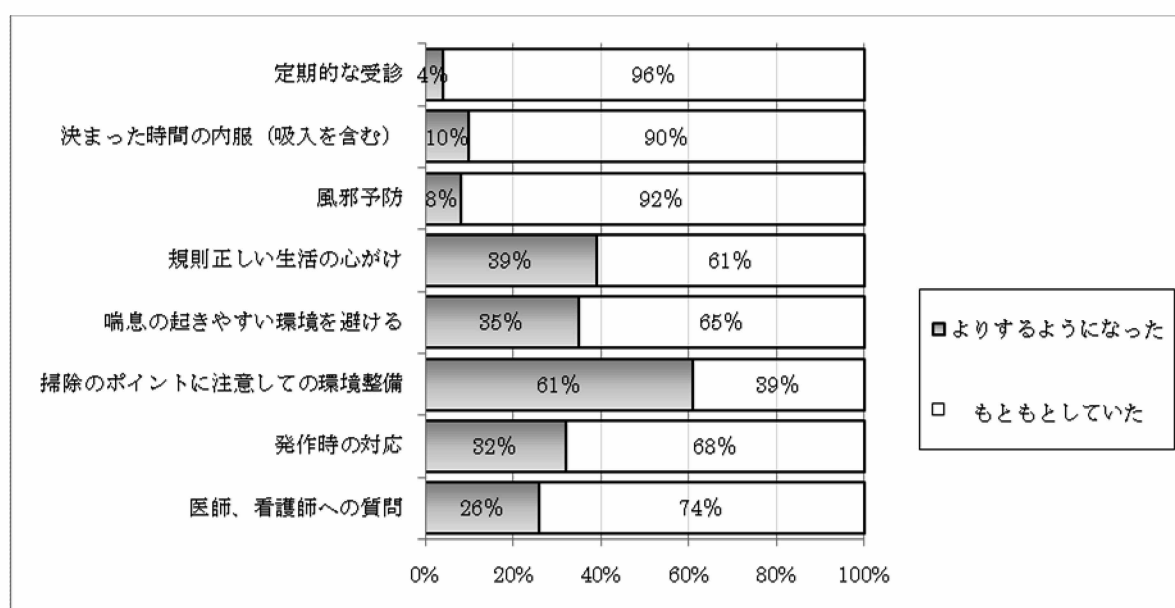


図7 日常生活行動の変化

今後パンフレットに追加してほしい項目、指導してほしい内容を問う自由記載の欄には、「各家庭の環境などを問い、問題点の対策を練るなど、個別に応じた指導をしてほしい」、「処方されている内服薬の作用・副作用について知りたい」等、今後の課題に繋がる記載があった。

V. 考察

アンケート結果から、パンフレットを用いた指導により、家族の疾患に対する理解・意識の向上を認めている。また、日常生活行動の変化も認めており、パンフレットを用いた指導は、喘息患児をもつ家族の治療・日常生活管理に効果を認めるものであったと考える。

アメリカの心理学者・ロックは、「明確で具体性を持った目標は、あいまいな目標よりも高いモチベーション（動機づけ）効果をもつ」³⁾と述べている。

今回、喘息治療・日常生活管理に関する明確で具体的な治療目標・日常生活管理方法を今回、パンフレットを用いて指導した。そのことにより、家族は、患児の保護者という立場で、明確な指標を得ることができ、「より積極的に患児の日常生活管理へ介入していく」という行動変容に繋がったと考えられる。

今後は、個別性に合った指導方法の検討を行っていきたい。

VI. 結論

1. 平成 21 年度の研究結果をもとに喘息患児をもつ家族に対する指導用パンフレットを作成した。
2. パンフレットを用いた具体的な指導は、患者家族にとって明確な指標となり、疾患に対する知識・意識の向上に繋がった。そのことにより、家族の日常生活行動の変容ももたらした。
3. 今後、個別性に合った指導内容、指導方法の検討が必要である。

引用文献

1) 西牟田敏之, 森川昭廣, 西間三馨・監

日本小児アレルギー学会ガイドライン委員会・編：小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2008. 協和企画, 東京, 2008

2) 宮崎美保, 大久保とみ子, 杉浦太一：入院初期から退院に向けての看護援助, 小児看護, 第 31 巻 (第 10 号), P1379, 2004.

3) 目標設定理論 Goal Setting Theory II INVENIO LEADERSHIP INSIGHT (オンライン)

(http://leadershipinsight.jp/dictionary/words/goal_setting_theory.html)

(参照 2010. 01. 08)